

# White Waters

「I ALONE CAN FIX IT」

White Waters [玉山拓郎、C2D]

2021年7月17日(土)～8月14日(土)

ANOMALY 通路

本展は、近年実施された選挙のキャンペーン演説において候補者が語った言葉「I alone can fix it」と、それに対してもう一人の候補者が批判的に言い換えた「We'll fix it together」という言葉の異同から遡及して、他者の声を代弁することと、社会的欲望を代理することとの間に生じる不可避的なギャップをひとつのモチーフとしている。

もうひとつのモチーフは、展示会場における通路のエクストラクションである。あらゆる展示空間には制度的・概念的な入口(出口)があり、そこにいたる場所＝通路がある。その先に何があるか知れない宙吊りの場でありながら、そこで足をやすめ喉をうるおすこともできる、展示経験にとって不可欠な安息の場である。展示というアテンション・ポリティクスとの不可知的接触の場である通路は、展示空間にとっての周縁であると同時に、枢要な支持体とも言えるだろう。

この二つのモチーフを手がかりに、White Waters は ANOMOLY 通路スペースにて、音声による作品や写真、ドローイングなどを用いたインスタレーションを提示し、誰かが誰かを表象＝代理することの可能性と不可能性のあいだに穿たれた、多様な脈絡や器官を掘り起こします。どうぞご期待ください。

White Waters (ホワイト・ウォーターズ)：

White Waters とは、玉山拓郎と C2D(シー・ツー・ディー)という二人のアーティストを観測点として生まれる有限のヴィジョンである。その名が示唆するのは、White Waters はかたちのさだまらない、気体を含んだ液体のように存在するということである。それは、社会的分断や対立をひき起こすもともなる、核心的な二分法のあいだや隙きまに入り込み、その両側に浸潤していくコンセプチュアル・サポート(構想の支持体)である。

White Waters は集合体でも運動でもなく、浸透的なヴィジョンであり、したがって固有のステートメントは持ちえない。表象とマテリアル、価値と実体、仮想と現実といったあらゆる二項対立のあいだを流れ、その両岸にとっての呼び水として作用する。とくに、局所的に断片化された美的な構想の島々をめぐっては、その生産や流通のさまざまな場面にしづくを落とすことになるだろう。喉の渇きを潤すこともできるが、その健康上の影響については不明である。

展覧会協力：遠藤麻衣、大坪綾子、松本加奈、百瀬文、山本悠

C2D シー・ツー・ディー

1981 年生まれ。慶應義塾大学卒業。2011 年頃より、多数の現代美術作家との会話や共同作業を重ねるなかで、作家や作品などの固有名を表象・代理することについての考察・研究を行う。「一番良い考えが浮かぶとき」TALION GALLERY (2020/東京)においてコラボレーション参加。